

第29回井月俳句大賞 「貧乏が自慢の母の干大根」

私は貧しい農家に生まれましたが、母は気丈な人で、むしろ貧乏を自慢にしていたくらいでした。私はそんな母が大好きでした。今回の受賞を亡母も喜んでいることと思います。ありがとうございました。

群馬県 千島 宏明

伊那市長賞 「夜濯の音に出でたる機嫌かな」

市長賞をいただけることお礼申し上げます。

私の句ですが、妻が怪我をした時、家事を私がしていた時の発想からの句です。洗濯機が古いもので、ガタガタ音を立て揺れながら回転していました。妻に私が洗濯すると洗濯機のご機嫌が悪いと言ったことがこの句になりました。大会の選者の先生に育てていただいたことにお礼申し上げます。私としては面映ゆい気持ちです。ありがとうございました。

奈良県 松尾 清朝

井上井月顕彰会賞 「父の日や軍事郵便といふ形見」

この度は第29回信州伊那井月俳句大会に於きまして、栄ある井上井月顕彰会賞を受賞いたしましたこと、至上に嬉しくお礼申し上げます。

今生では会えない父の戦地からの便りの筆跡を形見とし、次の世では見紛うことなく再会を果たしたく作句いたしました。

諏訪市 三輪 郁子

長野県俳人協会賞 「井月の漂白の地やすがれ追ひ」

井月さんはどのようにして伊那谷にやって来たのでしょうか。私はすがれ追いの目印となる真綿を追っかけて来たのではないかと勝手に夢を膨らませて句を詠ませていただきました。伊那谷には独特の食文化がありますが、無一物で欲の無い生涯を生きた井月さんが暮らした30年の足跡は、今となっては伊那谷にとって何ものにも変えがたい宝物だと思います。

これからの俳句大会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

長野市 白鳥 寛山

上伊那俳壇賞 「押し通すほど意地はなし紫蘇をもむ」

『家族にたのみず、一生懸命1人でがんばる私。来年も又やりたいと思う…。』

脳腫瘍を患い右手で字を書くことが不自由ですが、こんな私に賞をくださりありがとうございます。
愛知県 村井 範子

角川『俳句』賞 「猫つぐら平家の谷の夏炉焚く」

封筒の井月俳句大会実行委員会の差出し名を見て、これは良い知らせだと直感しました
案の定、嬉しい入賞の知らせでした。

秋山郷へ行った時、「民俗資料館」を見学した時のことを元にして作句しました。ありが
とうございました。

飯山市 永江 大心

信濃毎日新聞社賞 「父の山母の川あり青信濃」

入賞：唯々歡喜亦感謝

句：在所は駒ヶ根、本年卒寿。山は駒ヶ岳、巍々として秀麗。川は天竜川、滔々として玲
瓏。父母瞑目、既に過ぐ二十余年。夏の信濃、悉く青に染まる。他郷七十五年、懐郷烈々
亦茫茫。

静岡県 須藤 剛一

中日新聞社賞 「切株に子供が座る夏祭」

中日新聞社賞をいただき大変感激致しております。毎年この時期になりますと思い出しま
す。子供の頃山車を曳きました。途中小休止をした時、運良く切り株があり、そこに腰をかけ
頂いた西瓜の味は忘れません。歳を重ねると益々郷愁が蘇ってきます。

受賞を励みにしたいと思います。ありがとうございました。

新潟県 風間 洋平

長野日報社賞 「ふる里のもう一駅を余花の径」

コロナ禍のおり、閉塞感のある中思いがけず入賞のお知らせに接し、驚きと嬉しさでいっ
ぱいです。ありがとうございました。

いつも径を離れ遠回りした折、人知れず満開の山桜に出会い賜りました。

長野市 澁谷 伊佐尾

伊那市有線放送賞 「うすれゆく地縁血縁花は葉に」

最近では地域・隣近所や親戚との付き合いが薄れてきていると思います。煩わしさのない気楽な気持ちと寂しい気持ちの両面を季語に託しました。

神奈川県 加瀬 和正

信州・市民新聞グループ賞 「紅梅の雫の中の空無限」

雨後の朝、名古屋市農業センターで一層鮮やかな紅梅を見つけ、写真に撮ろうとした時、その花に色のついた雫が……。ズームアップした雫の中には、真紅の紅梅と抜けるような青空が広がっていました。その青空は老境に入った私に「まだ生きよ！」「まだ生きよ！」と語りかけるような青さでした。

突然の身に余る程のお知らせを頂き、驚きのばかりです。

飯田市 宮澤 正和

高校生井月俳句大賞 「ふるき羽子つかるるたびにひかるなり」

去年に続き、今年も高校生井月俳句大賞に選ばれたこと、うれしく思います。このことを誇りに思い、これからも句作に励んでまいります。

福井県 福井 水龍子